

転 生

Reincarnation

安 井 至

国際連合大学名誉副学長・東京大学名誉教授

<http://www.yasuienv.net/>

(独)製品評価技術基盤機構

最初の意図 2011年2月ごろ

- これまで、製品のライフサイクルを考えると、



Cradle to Grave

を標榜してきた



- しかし、近年、より高度な概念として

Cradle to Cradle

が注目されるようになった

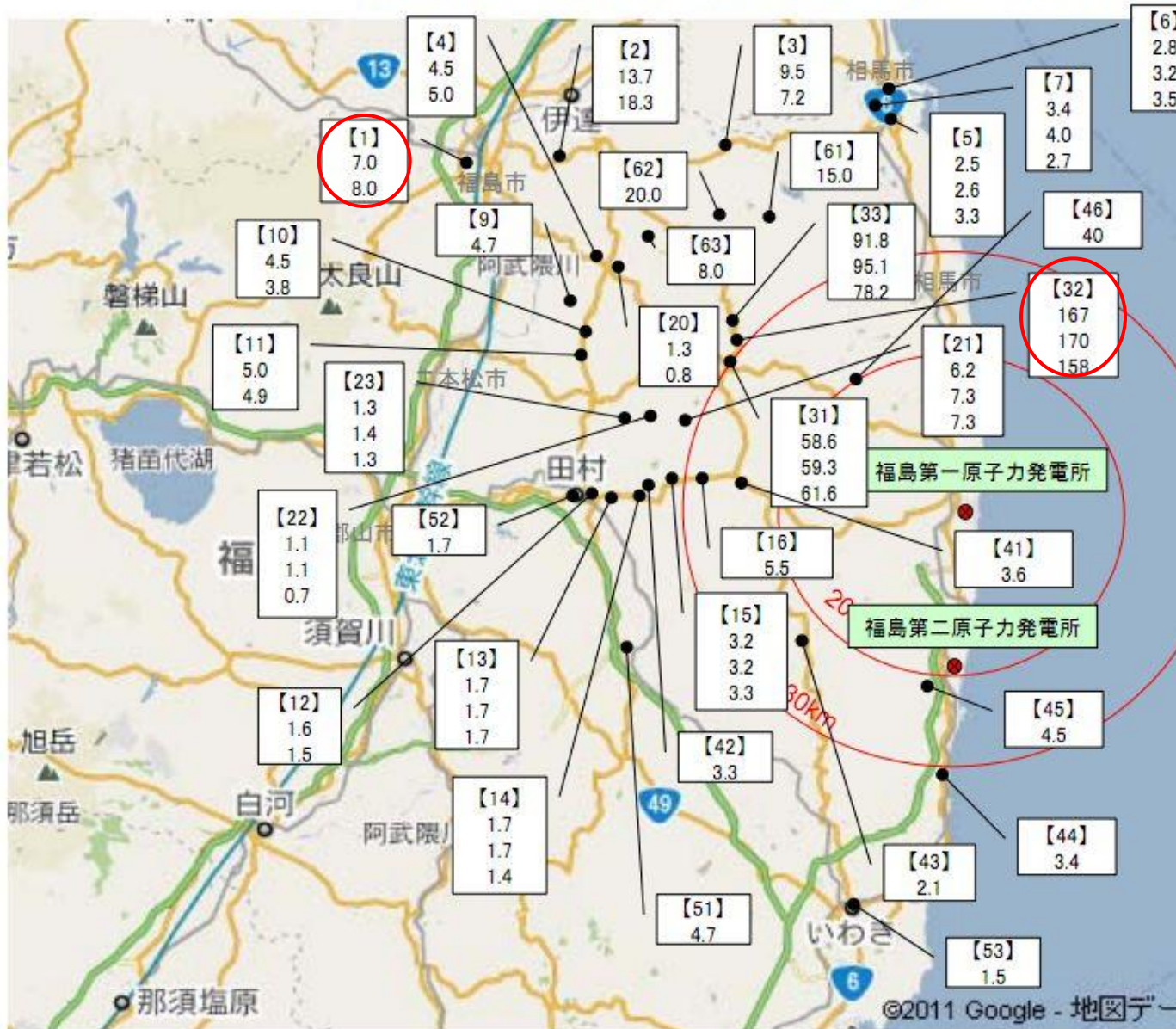


3. 11が変えた状況



東京電力が撮影した
津波に襲われている福島第一発電所

福島第一原子力発電所周辺のモニタリング結果



測定日時
3月17日
9時20分～17時43分

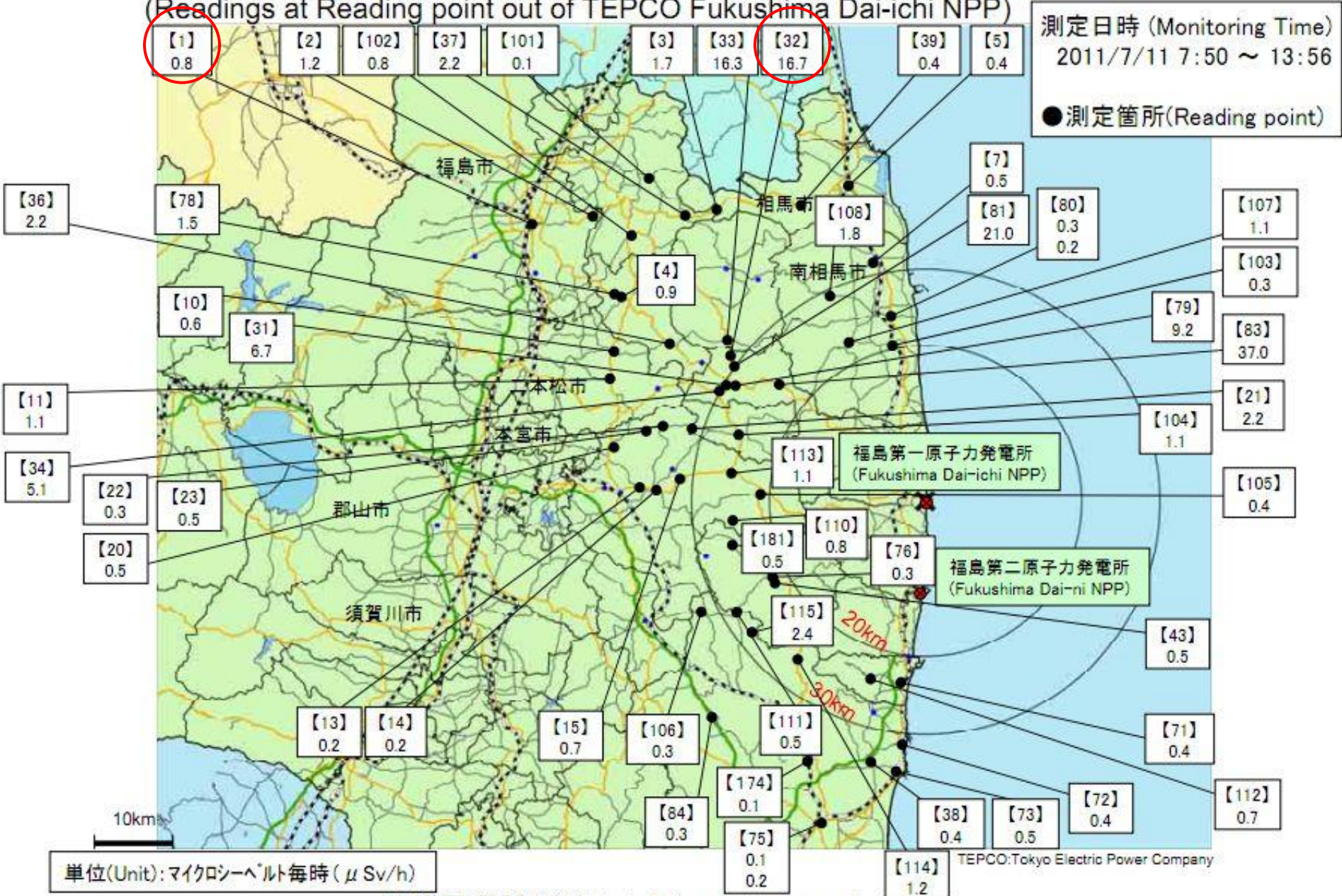
●測定箇所

文部科学省HPより

単位:マイクロシーベルト毎時

東京電力株式会社福島第一原子力発電所周辺のモニタリング結果

(Readings at Reading point out of TEPCO Fukushima Dai-ichi NPP)



福島のカース (文科省のモニタリングデータによる)

■ 福島県浪江町

- 当初200 μ Sv/時
- 1週間後65 μ Sv/時
- 1ヶ月後25 μ Sv/時
- 4ヶ月後20 μ Sv/時

7月まで合計90.8mSv

→23.5mSv

→17.6mSv

→49.7mSv

来年3月まで 合計206mSv

■ 福島県福島市役所

- 当初 8 μ Sv/時
- 1週間後3.5 μ Sv/時
- 1ヶ月後1.2 μ Sv/時
- 4ヶ月後0.8 μ Sv/時

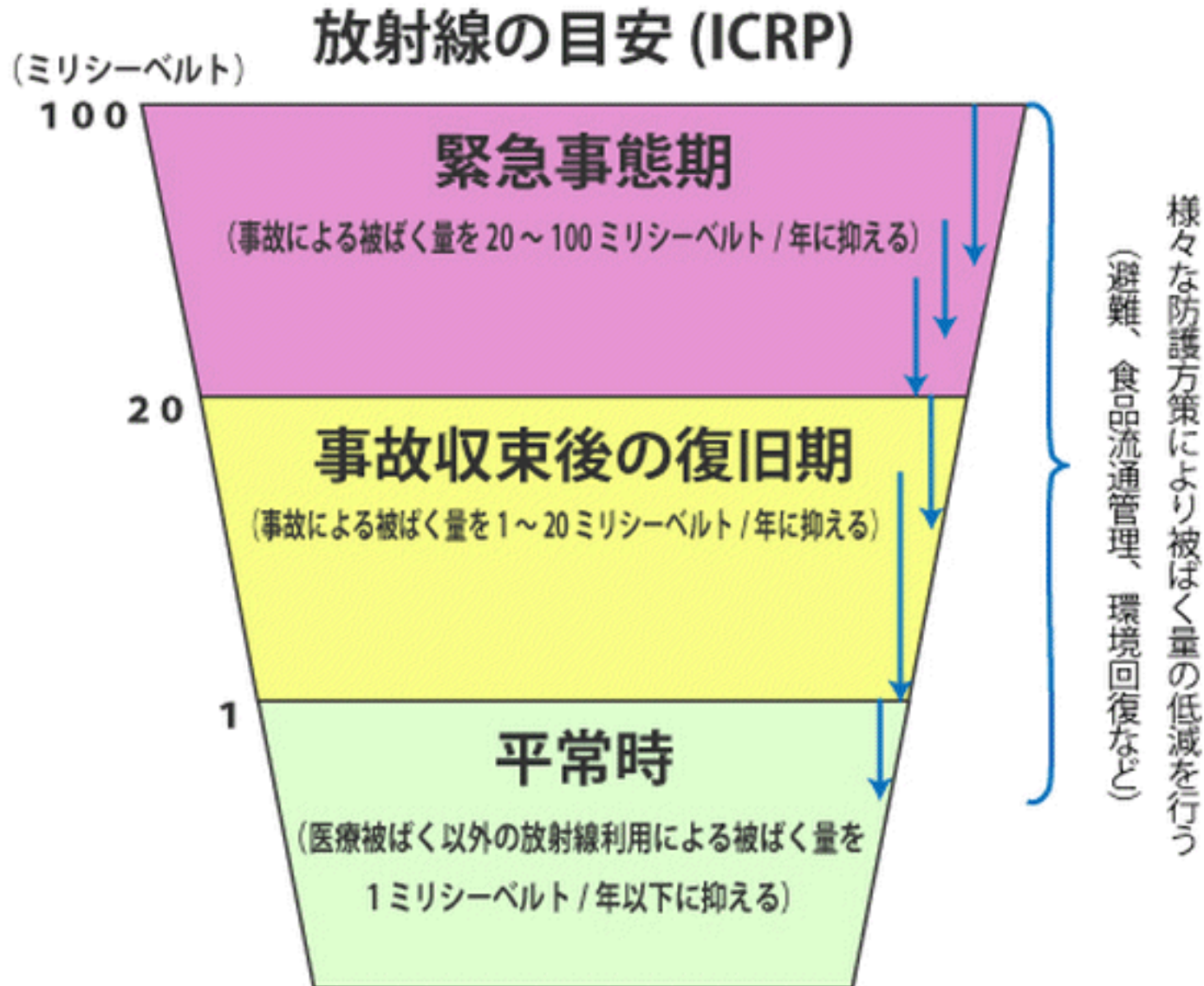
7月まで合計4.4mSv

→1.0mSv

→1.2mSv

→2.2mSv

来年3月まで 合計10.9mSv



放医研のHPなど

福島県の小学校の校庭利用

- 小佐古東大教授の発言（緊急事態でも子どもに**20mSvの数値を適応すべきでない**。1mSvで行くべき、などと4月29日に記者会見し、内閣参与を辞任）で方向性が変わった。
- 「文科省は学童の学校での被曝を年間**1mSv以下にする**」と表明。
 - 1日8時間在校するとすれば、200日として1600時間
 - 0.6 μ Sv/時なら条件を満たす。
- 校庭は高線量なので、6月までは、校庭を使用しなかった。
- 校庭で遊ぶかどうかを、保護者の判断に委ねた。
- 保護者の判断は、半々だった。特に、母親は慎重派で、子どもを校庭で遊ばせることを躊躇した。これは、**正しい対応ではないと思われる**。

何を転生したいか、転生するか

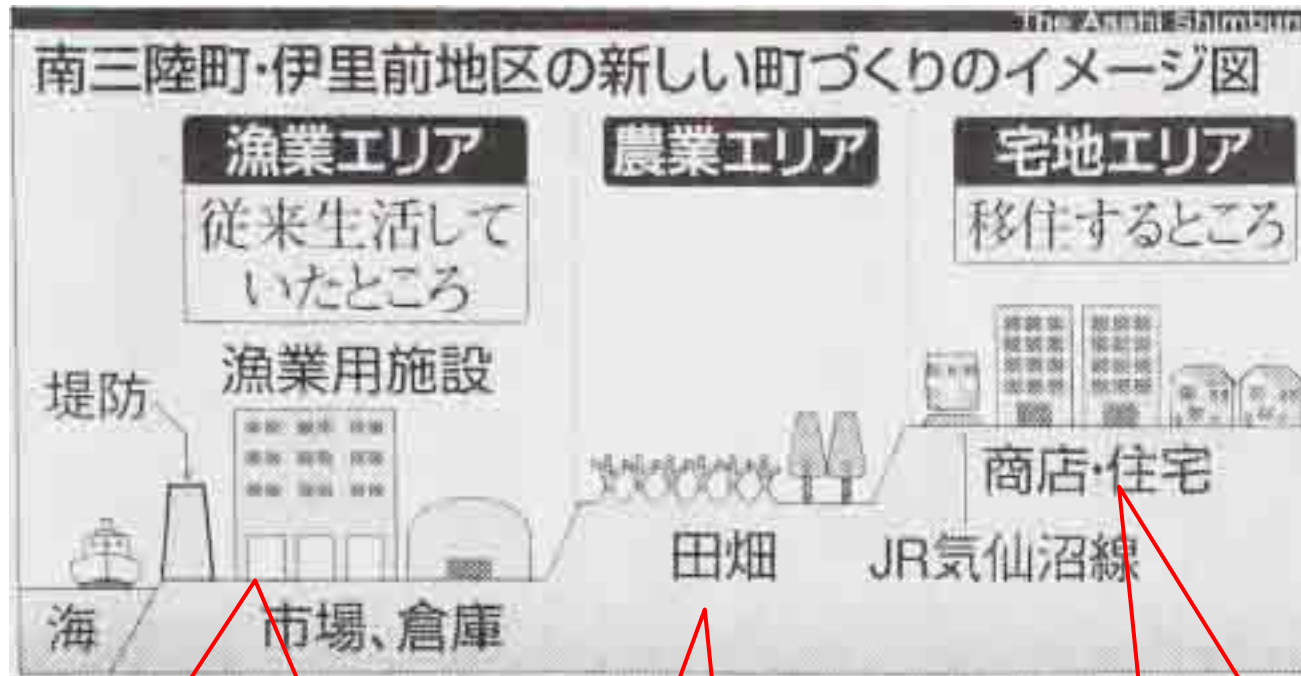
- 浪江町などの居住不可能地域
- 三陸の津波対応の考え方
- 放射線ノイローゼの母親たち
- 古い原発
- 科学的正義が失われるリスクに直面
- まともな政治家がいない状況
- まともな政治家を選べない日本人

福島第一モニュメント

- 国(電力)が買いあげる。
- 風力、太陽光発電で発電するテストサイト。
- 自らの儲けのチャンスを活用するための方策を電力会社自らが考えるようになる。
- 直流送電などの実験地域になる。
- 余剰面積は、被曝対策の放射性含有物、灰溶融スラグや、表層土壌などの保存地域として活用。
- 増富鉱泉や三朝温泉の効用を越す、ラジウム・ラドン温泉ではなくセシウム温泉センターにするのは、残念ながら駄目だろう。

何を転生したいか、転生するか

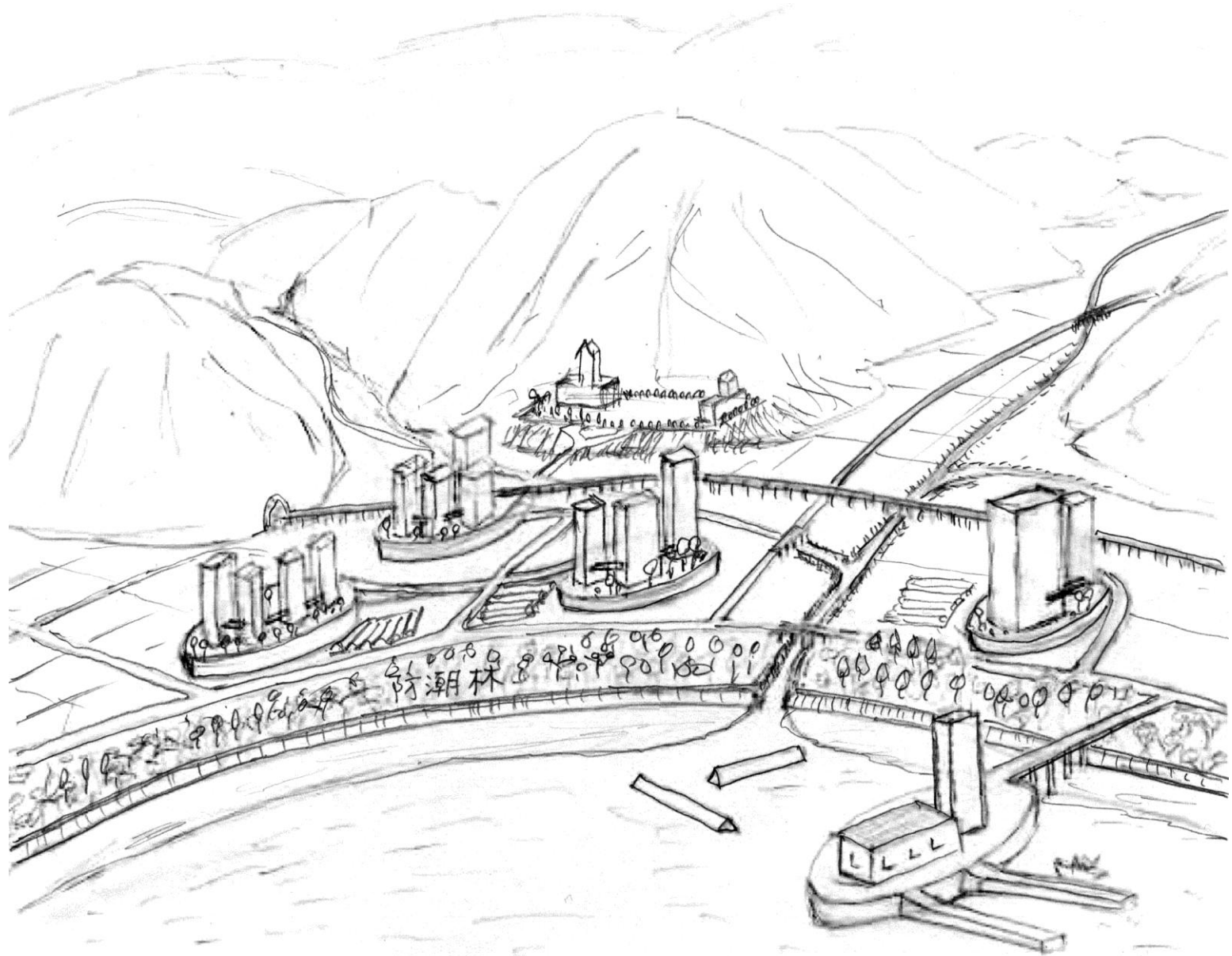
- 浪江町などの居住不可能地域
- 三陸の津波対応の考え方
- 放射線ノイローゼの母親たち
- 古い原発
- 科学的正義が失われるリスクに直面
- まともな政治家がいない状況
- まともな政治家を選べない日本人

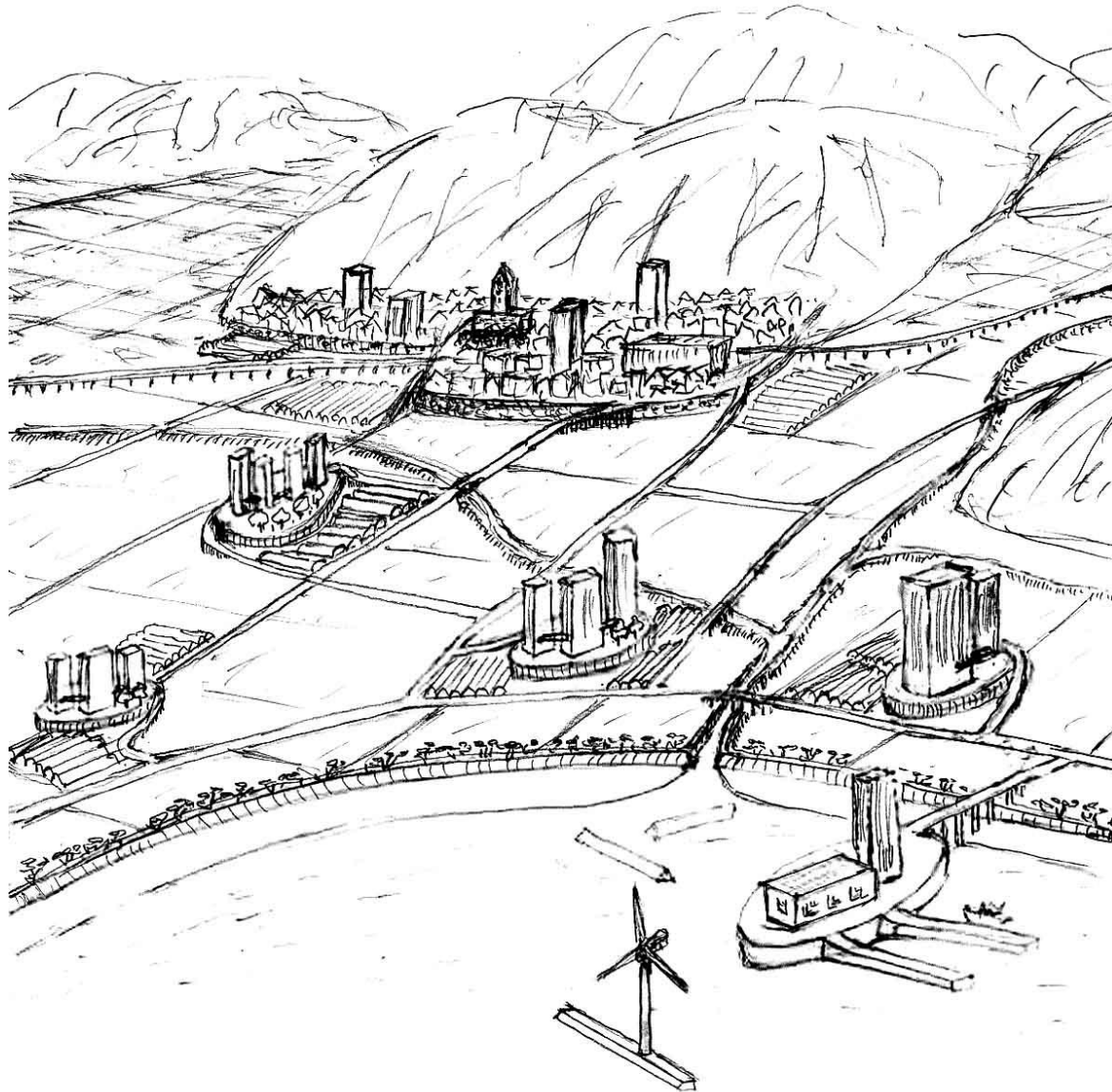


完璧な堤防を作る？
それとも、避難地？
船舶の緊急避難は？

農業従事者の年齢は？
避難はどこに？

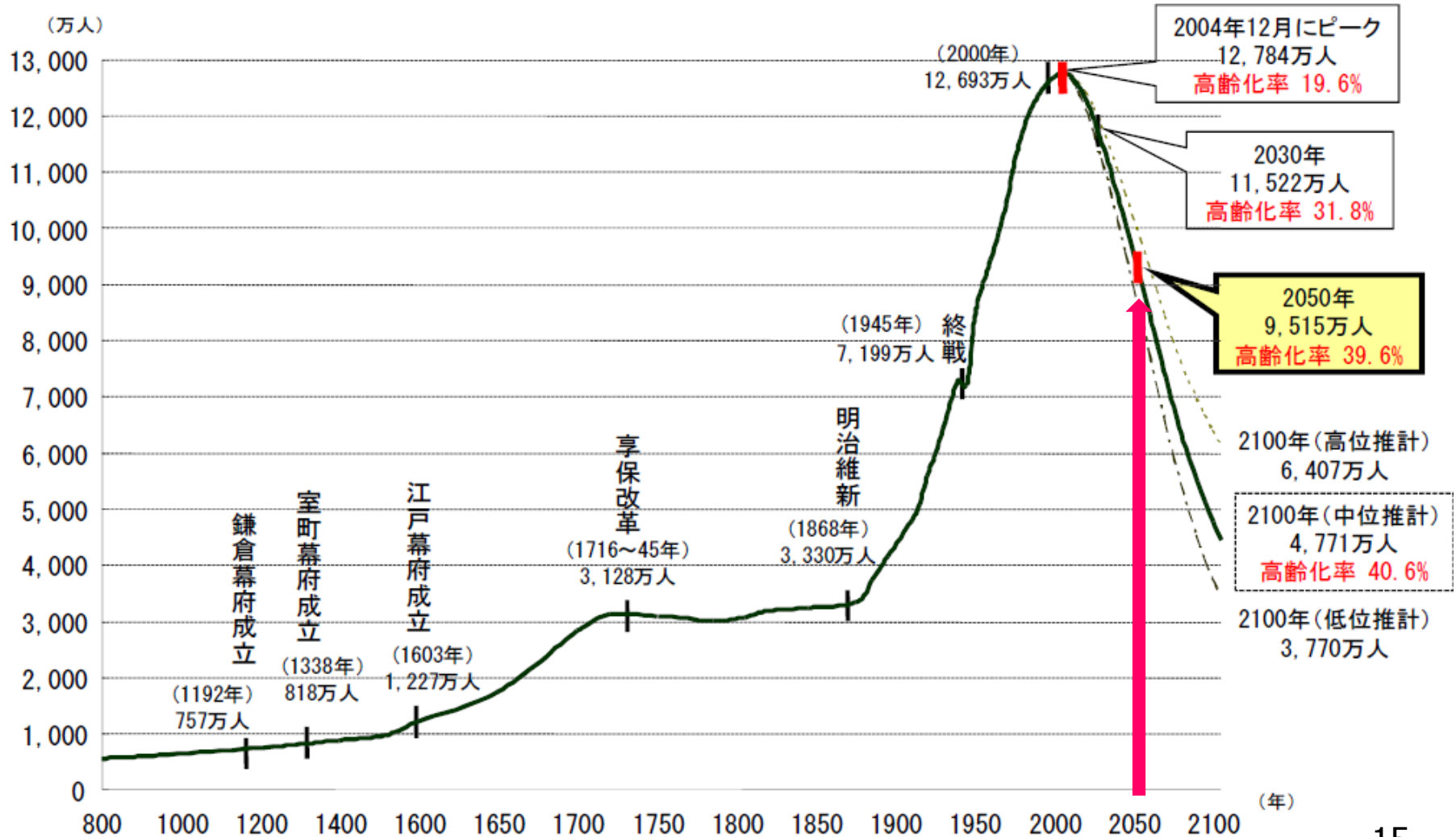
毎日車で通勤？
高齢者は？





2050年日本の将来人口

<国立社会保障・人口問題研究所の推計>



- エコプレミアム原則

- 街の復興プランは、2050年に確実に生存していると思われる人々の合意で決める。

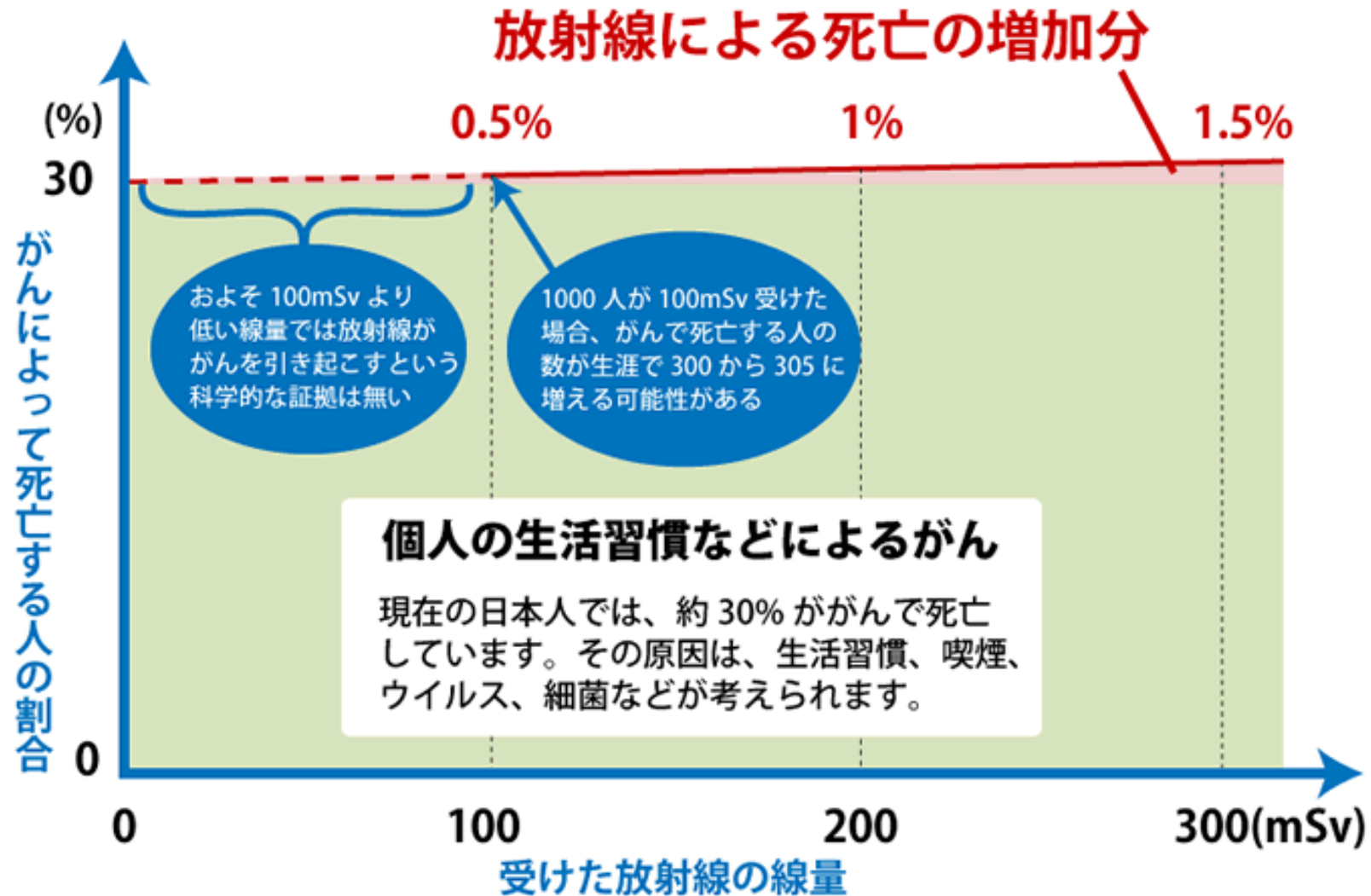
何を転生したいか、転生するか

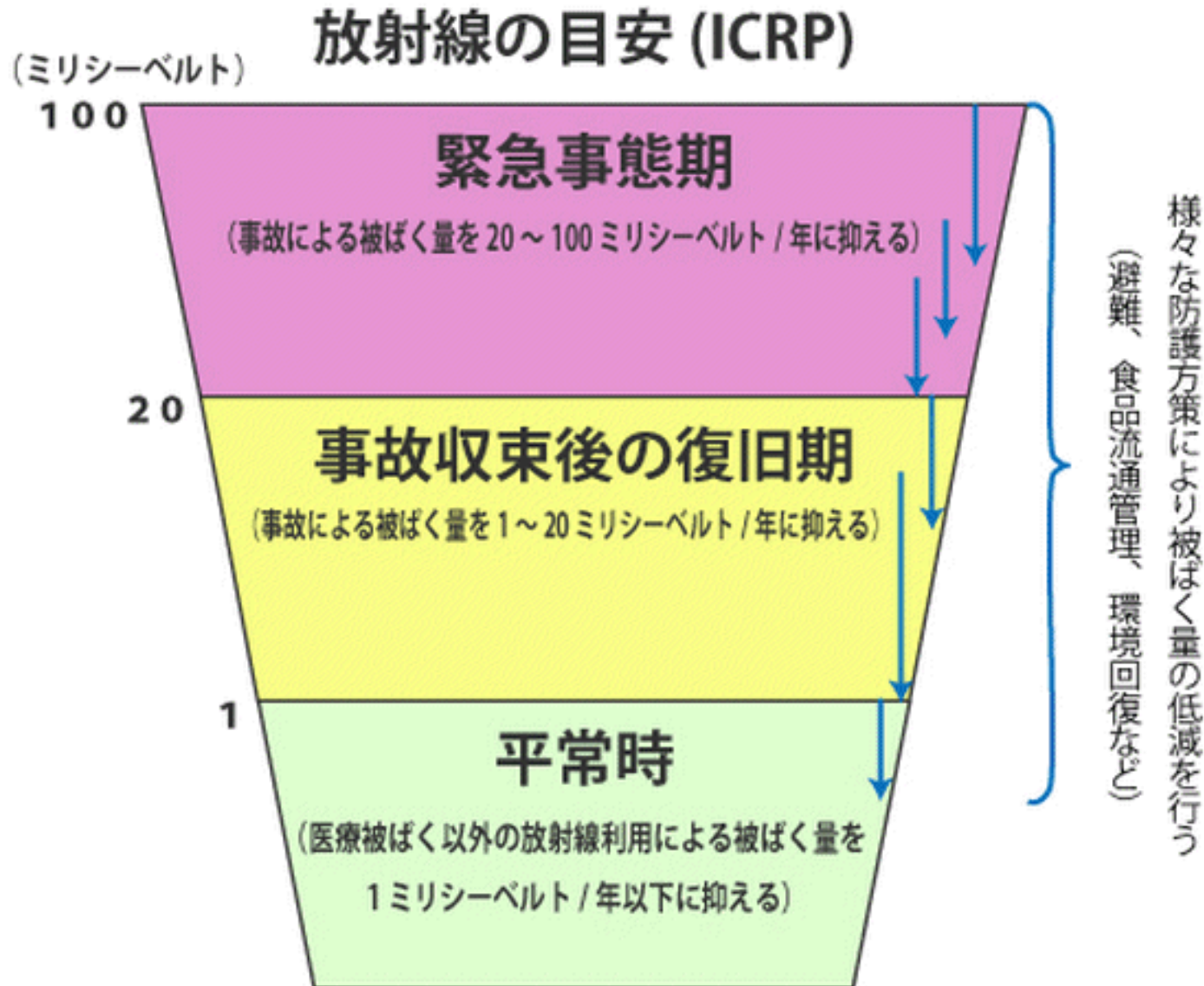
- 浪江町などの居住不可能地域
- 三陸の津波対応の考え方
- 放射線ノイローゼの母親たち
- 古い原発
- 科学的正義が失われるリスクに直面
- まともな政治家がいない状況
- まともな政治家を選べない日本人

放射線ノイローゼ

- 母親のウエットなマインドとのコミュニケーションは、極めて難しい。
- ICRP(国際放射線防護委員会)の立場と本音をしっかりと伝える。
- 日常的な管理基準と非常事態の管理基準の意味するところを、歴史的な経緯を含め伝達する。

放射線によるがん・白血病の増加





菅原努教授の中国での疫学

天然放射線が強い地域 2~3mSv/年

線量 (mSv)	人数	相対リスク	95%信頼限界
0-99	142	1	
100-199	261	0.83	0.65-1.06
200-299	211	0.98	0.76-1.26
300-399	263	0.9	0.68-1.18
>400	82	0.66	0.45-0.98

妥当な説明には、この地域は注目されているため、無料検診を受ける機会が多いことを考慮すべきか？

コミュニケーションを目的とした ICRPの緊急事態期の読み方

- **ここ1～2年での被曝量が**
- **100mSv**なら、**致死性のがんが発生する確率は計算上0.5%**だが、実際には被曝しなかった場合と同等である可能性が**99.5%以上**ある。緊急事態だからこの程度の可能性があることは仕方ないが、今後、できるだけ被曝量を下げる努力をすること。
- **20mSv**なら、**致死性のがんが発症する確率が計算上0.1%**だが、被曝しなかった場合と同等である可能性が**99.9～99.999%**ある。しかし、被曝量を下げるため、可能な努力をすること。
- **10mSv**なら、**致死性のがんが発症する確率が計算上0.05%**だが、被曝しなかった場合と同等である可能性が**99.95～99.9999%**。自然放射線によってこの程度の被曝を受けている地域もある。しかし、今後、被曝量を下げるに越したことはない。

古い原発

- やはり引退していただく。特にBWRマーク1。
- 40歳が定年、30歳が早期退職
- 使用済み核燃料の最終処分を「決めない・やらない」で原発を使い続けるのは、あと30年ぐらいが限界ではないか。
- プルトニウムを分離する今の方法が良いのか。
 - しかし、分離しないで、そのまま保存すると10万年かかる。
 - 10万年は、ホモサピエンスの歴史の半分。

何を転生したいか、転生するか

- 浪江町などの居住不可能地域
- 三陸の津波対応の考え方
- 放射線ノイローゼの母親たち
- 古い原発
- 科学的正義が失われるリスクに直面
- まともな政治家がいない状況
- まともな政治家を選べない日本人

日本を覆う“圧力雲”を追い払う

- 2011年3月22日から25日の食品安全委員会の食品中のセシウムの許容量
- 発言する委員はすべて100mSvまでの安全性を主張。規制としても、現在の5mSvを10mSvに変更し、緊急事態に対処することを容認。
- しかし、結果は、「不変」。
- 理由は、初日の審議を受けた各紙の予想(=基準緩和)に対して**100通を超す抗議メール**。
- EUの基準は、チェルノブイリの経験からか、日本の基準よりも2~5倍緩いのが現実。
- 委員会最終決定は、パブリックコメント中。

7月末

「生涯累積被曝100mSvを目安」食品安全委

- 少しでも基準を下げると、政治的な危機
- よって緊急事態期という認識を持ってない
- リスクはゼロにできると思いつまされている一般市民
- EUは、もともと日本より緩い基準値を日本の状況を加味し、さらに緩めた。
- ところが、その2週間後、市民からの反発によって、日本の暫定基準値と同じ値が採用されてしまった。

Old and new limits for cesium-134 and cesium-137

Food	Past EU limit in becquerels per kilogram	New limit in becquerels per kilogram
Baby foods	370	400
Dairy products	370	1000
Liquid food	600	1000
Foods with less importance (for example, sweet potatoes, garlic, ginger, fish oil, spices like cinnamon and curry)	600	12 500
Other foods	600	1250

EUの基準
2011/03/31

Bq/kg

EUも
最終的に
日本の
暫定基準
を採用

セシウム (134 と 137)	水	200
	牛乳・乳製品	200
	野菜類	500
	穀類	500
	肉・卵・魚など	500

対応策

- 事務局は、抗議メールが来たことなどを公表。
- そのメールの内容も公開する。
- 審議会や研究会に参加する委員には、SNSなどの手法によって、個人的な意見を公開することで、**風を起こし、雲を追い払う**ことを義務化する。
- しかし、**雲の原産地が「政治そのもの」である可能性**は否定できない。

何を転生したいか、転生するか

- 浪江町などの居住不可能地域
- 三陸の津波対応の考え方
- 放射線ノイローゼの母親たち
- 古い原発
- 科学的正義が失われるリスクに直面
- まともな政治家がいない状況
- まともな政治家を選べない日本人

対応策

- 一般重要法案国民投票法を作る
(これができないという現実とは別として)
- 国会議員強制免職法を国民投票で成立させる
 - 「こんな政策を自党が主張したら次の選挙で勝てない」と発言した議員
 - 県3つより小さな範囲での地元への利益誘導を行った議員
 - 党議拘束をもった政党に所属する議員
- 国政・地方選挙二票制度を成立させる
 - 第1票目は、現在の自分にとって良い候補者に投票
 - 第2票目は、20年後の日本にとって良い候補者に投票